

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

高度救命救急センターは、“頭からつま先まで”や“全身から局所へ”の理念のもとに全人的な救急医療、救急医学教育を行うために、卒後研修医と救急医(専門医、指導医)の養成研修部門として、さらに各診療科の救急傷病に対する修練部門として存在している。このプログラムの研修により、life savingを主眼としたemergency care と基本的なcritical careの考え方や技術を修得することを目的とする。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

1. 症状・バイタルサイン・各身体所見より、緊急度、重症度を判断し、適切な初期診療能力を身につける。

心肺機能停止、ショック、意識障害、呼吸困難、胸・背部痛、腹痛、吐血、外傷、重症熱傷、急性中毒など

2. 緊急蘇生法および診療に必要な診察、検査法に習熟し、臨床応用ができる。

① 自ら実施し、結果を判定評価することができる。

- ・気道確保
- ・気管挿管
- ・人工呼吸
- ・心マッサージ
- ・除細動
- ・緊急輸血
- ・超音波画像診断法 (FASTなど)
- ・採血(静脈血や動脈血)
- ・導尿
- ・注射法(静脈路確保、中心静脈路確保など) など

② 指示・依頼を行い、または指導医のもとで実施し、自ら結果を判定または評価することができる。

- ・穿刺法(胸腔、腹腔、腰椎)
- ・画像検査(X線・CT・MRI・血管撮影など)
- ・緊急薬剤(心血管作働薬、抗不整脈、抗けいれん剤など)
- ・ドレナージ類の管理
- ・創傷処置(止血法、デブリートメント、縫合法など)
- ・骨折整復術
- ・牽引術など

③ 主な救急疾患(経験すべき疾患)を理解し、その鑑別診断ができる。

ショック、心肺停止、意識障害、脳血管障害、急性呼吸不全、急性心不全、急性冠症候群、急性腹症、消化管出血、急性肝不全、重症急性膵炎、急性腎不全、重症感染症、多発外傷、急性中毒、重症熱傷 など

④ 救急領域の基本的治療能力と原理を理解し、適応を決め、処置・手術手技を習得し、ICU管理ができる。

また、専門医への適切なコンサルテーションができる。

## III. 方略 (Learning Strategies)

病棟でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、OSCE、カンファレンスなど。

## IV. 経験できる疾患・手術など

### A. 経験すべき術式

気管切開術  
経皮的冠動脈形成術  
内視鏡的止血術  
開腹腹膜炎根治術  
経カテーテル的動脈的  
塞栓術(TAE)  
観血的骨折整復術  
開頭・穿頭血腫除去術

### B. 経験すべきICU管理法

人工呼吸器  
急性血液浄化  
(CHDF, PE, DHPなど)  
IABP  
PCPS  
低体温療法  
など

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC、症例発表による自己評価・指導医評価。  
指導医・看護師などによる形式的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 高須 修
2. 指導責任者 山下 典雄
3. 指導医 宇津 秀晃、堀 賢介、鍋田 雅和、  
竹内 靖治、重留 広輔
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

- 月 8:15 新患紹介  
10:00 センター長回診  
18:00 総合カンファレンス(抄読会)、医局会  
火～土  
8:15 新患紹介  
9:00 各部署カンファレンス回診・処置  
17:00 各部署カンファレンス

